

盛岡の文化の礎 方長老の残した足跡

南部鉄器・清酒・黄精・・・
盛岡の文化創造に
関わったとされる方長老
そのゆかりの庭石は今も街並みのなかに



『この庭石は、中の橋際にあつた南部家重臣毛馬内三右エ門の庭（方長老が築庭したといわれる）にあつたものとつたえられている。

方長老（規伯玄方）は、福岡宗像郡の生まれで対馬藩の外交僧として活躍したが、時の幕府の忌諱に触れ寛永十二年（一六三五年）南部盛岡藩お預けの身となった人物である。

盛岡では方長老と呼ばれ、北山法泉寺山門前に住居を構え、時の藩主重直に重く遇され、文教・商工に広く影響を与えたほか、造園・醸造・薬種などを住民に教えたといわれている。

盛岡には、二十四年間留まり、後に京都南禅寺に住んでいたが七十四歳で大阪九晶院で没した。

説明板より

先進の文化を盛岡に伝え、広めたとされる方長老。その文化は現代も盛岡の地に根ざしています。

